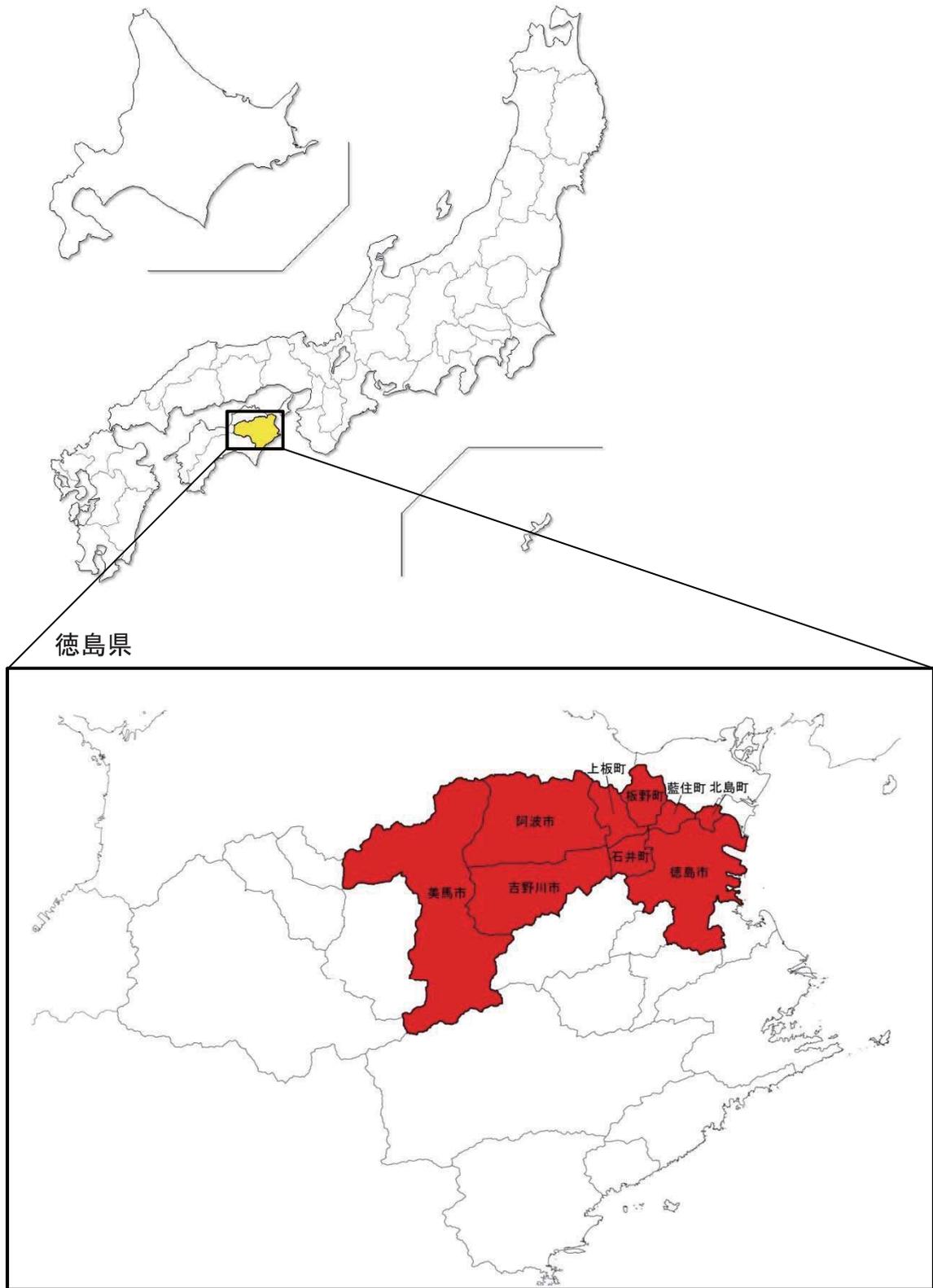


① 申請者	徳島市、吉野川市、阿波市、美馬市、石井町、北島町、◎藍住町、板野町、上板町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E	
③ タイトル				
(ふりがな)	あいのふるさと あわ～にほんじゅうをそめあげたしこうのあおをたずねて～			
藍のふるさと 阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～				
④ ストーリーの概要（200字程度）				
<p>古くから日本人の生活に深くかかわり、神秘的なブルーといわれた「藍」。徳島県の北部を雄大に流れる吉野川の流域は、藍染料の日本一の産地です。この地域の平野部に見られる高い石垣と白壁の建物に囲まれた豪農屋敷や脇町の豪華な「うだつ」があがる町並み、「阿波おどり」のリズムからは藍染料の流通を担い、全国を雄飛した藍商人のかつての栄華をうかがい知ることができます。この地域では、今も藍染料が伝統的な技法で生み出されており、その色彩は人々を魅了し続けています。</p>				
				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名	藍住町教育委員会社会教育課			
電 話	088-637-3128	FAX	088-637-3153	
E-mail	syakaikyouiku@aizumi.i-tokushima.jp			
住 所	〒771-1292 徳島県板野郡藍住町奥野字矢上前 52-1			

市町村の位置図（地図等）

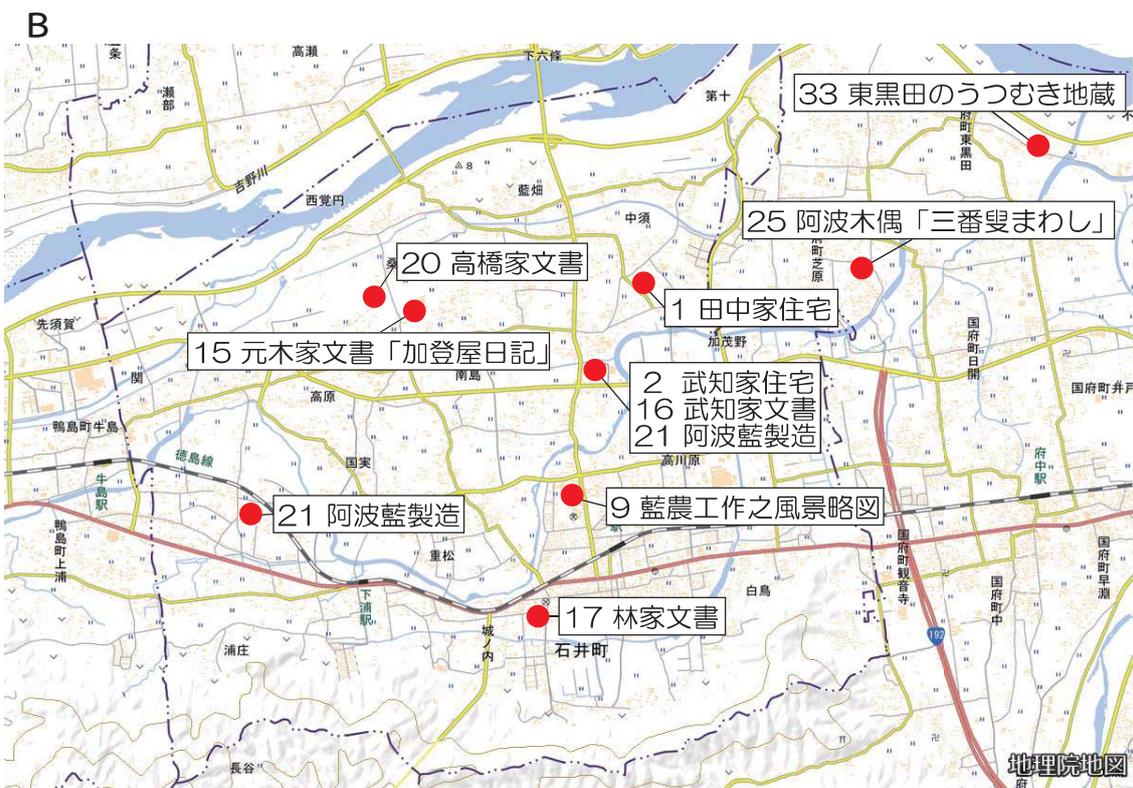


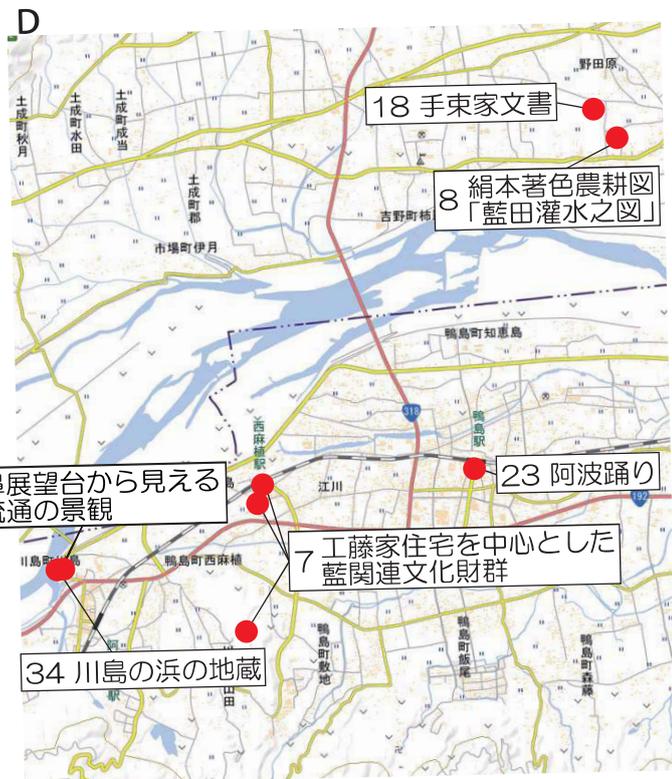
構成文化財の位置図（地図等）

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す。
(様式 3-1 の番号に対応させること)



※「国土地理院の電子地形図（タイル）に文化財の位置を追記」（以下のページの地図は全て同じ）

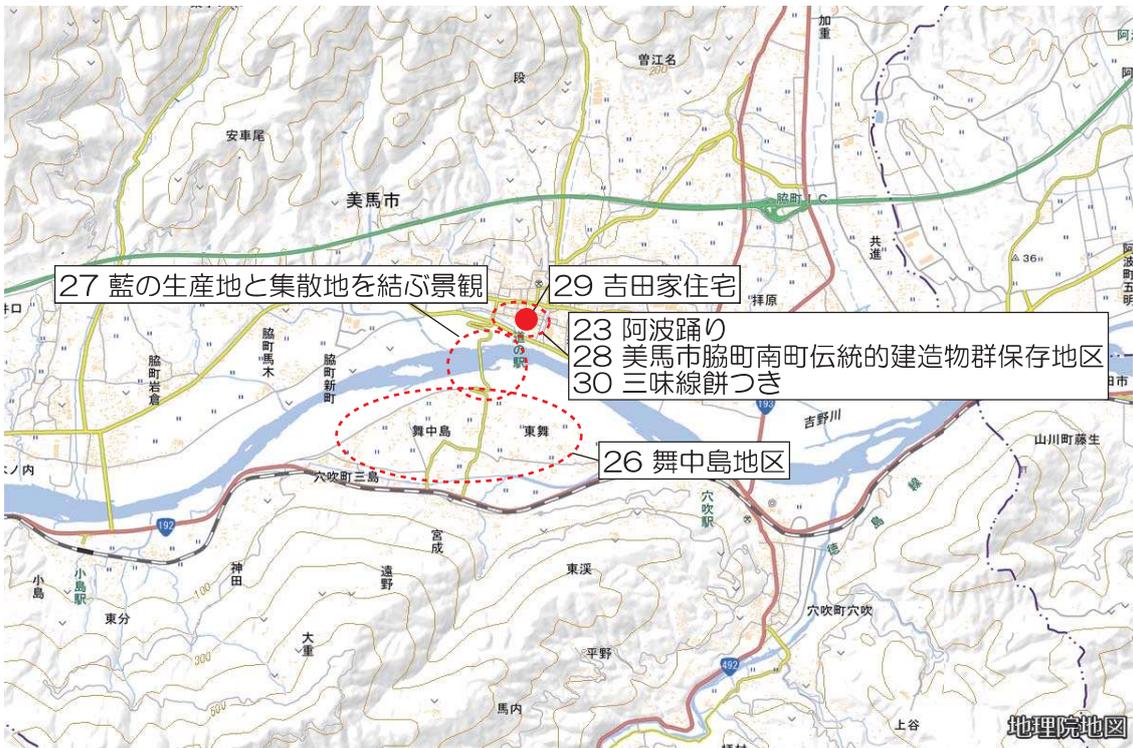




F



G



ストーリー

古くから日本人の生活に深くかかわり、日本を代表する色彩である「藍」。明治時代に日本を訪れた外国人は日本中に「藍」で染められた衣服が溢れていることに驚き、「この国は神秘的なブルーに満ちた国」と絶賛しました。その神秘的なブルーを生みだしていたのが「阿波の^{きたかた}北方」といわれる徳島県北部の^{よしのがわ}吉野川流域です。この地域は日本一の藍染料の産地で、今なお途絶えることなく職人が伝統の技で藍の染料づくりを行い、日本の染織文化を支え続けている藍のふるさとです。

◆藍の里の景観と風土

徳島県北部を東西に流れる吉野川の流域では、平野部に広がる田園風景の中に、高い石垣でかさ上げされた大きな屋敷があちこちに見られます。本瓦葺きで白壁の^{じゅうこう}重厚な建物に囲まれ、さながら城を思わせるこの屋敷は「^{あいやしき}藍屋敷」と呼ばれこの地域を^{しやうちやう}象徴します。「藍屋敷」は江戸時代から明治時代にかけて藍染料の生産・加工・流通を担った^{あやし}藍師や^{あいしやうにん}藍商人の住居兼生業、商談の場であり、ここから多くの藍染料が日本中に送り出されました。暴れ川であった吉野川からは当時の灌漑技術では直接水を取ることは難しく、流域では稲作がほとんどできませんでした。また、たびたび起こる洪水は流域の人々に甚大な被害を与えました。しかしその反面、豊富な^{ふくりゆうすい}伏流水に恵まれ洪水によって肥沃な^{ひよく}土壌がもたらされるこの地域は、藍の栽培に適した土地柄だったのです。

平安時代の終わりに阿波で栽培が始まった藍は、室町時代にはこの地域の特産となり、室町時代後半に^{しょうすい}勝瑞城下で藍染料に加工されるようになったといわれています。江戸時代に入ると、徳島藩は重要な財源として藍の生産を保護・奨励し、積極的に品質向上にも努めました。江戸時代の中頃には、全国的な木綿の普及に伴い藍染料が大量生産されるようになりました。さらに、^{いぬぶしきゆうすけ}犬伏久助が加工技術を改良したことにより、品質が高まった阿波の藍染料は「本藍」と呼ばれ全国市場での人気を独占し、販売特権を与えられた阿波の^{ぼくだい}藍商人は、莫大な利益を藩にもたらしたのです。

阿波の藍師や藍商人たちは、藍染料の買付けに来る全国各地の商人たちを最大限にもてなし、信用を得るために競って豪壮な屋敷を構え、接待に多くの金を使いました。立派な「藍屋敷」があちこちに見られるのは、こうした歴史的背景によるものです。これらの屋敷地には軒が大きく張り出した特徴的な形をした「^{ねどこ}寝床」といわれる藍染料の加工場が今も残っています。軒下には刈り取った藍の葉が運び込まれたり、洪水のときの脱出用の舟が吊り下げられたりしています。^{こうざいあいなか}功罪相半ばする吉野川の流域で藍染料づくりの技術を受け継いできた藍のふるさとの風景です。

◆藍染料、「^{すくも}葉」づくりの技

阿波の北方では、江戸時代から変わることのない伝統的な藍染料づくりを今も見ることができます。初春、ツバメが来る頃に^{なえどこ}苗床に種を播き、霜が降りなくなると畑に苗を植えます。そして梅雨が明ける頃には緑一色に染まった藍畑が一面に広がります。初夏に収穫した藍の葉を細かく刻み、乾燥させ、発酵させることで藍の染料が出来上がります。加工場である「寝床」では、積み上げられた藍の葉に水を打ち、攪拌し、発酵を促す作業が秋から冬にかけて何度も繰り返されます。そこには全身全霊をかけて、美しい色



「城構え」といわれる藍屋敷



藍屋敷の主屋と庭



「寝床」の軒先に吊られた舟

を出す藍染料を作る職人の姿があります。

藍の葉の発酵温度はやがて60度を超え、作業中の寝床の中はもうもうと湯気がたちこめ、暖かい空気と刺激的な発酵臭が充満します。その温度と臭いは藍染料の仕上がりを知るバロメーターとなります。そして、初霜が降りる頃、藍師の手仕事によって発酵が進んだ藍の葉は、黒い土の塊のような姿になり、藍の色素が凝縮された「^{すくも}葉」と呼ばれる藍の染料が出来上がるのです。



藍畑



藍の葉に水をかけて発酵を促す



発酵の状態を確かめる藍師

◆阿波藍の流通と繁栄

阿波の藍師が手塩にかけてつくり上げた藍染料は、徳島藩から販売権を容認された藍商人を通して、大阪・名古屋・江戸をはじめとする全国の藍市場に供給されました。それにあわせ、阿波の藍商人の活躍もまた全国規模で展開されるようになりました。藍商人たちは富を得るだけでなく、全国各地との文化交流の担い手となりました。徳島城下の盆踊りに上方で流行していた^{にわか}俄踊りが登場するようになったのをはじめ、今の阿波おどりに各地の様々な要素が取り入れられています。例えば『阿波よしの節』は茨城県の『^{いたこふし}潮来節』が元になっているともいわれ、そこには全国に雄飛した阿波の藍商人の姿を感じることができます。

また、芸事を好み、金銭を惜しまなかった阿波の藍商人が頻りに人形座を招いて人形芝居を楽しんだことから「^{あわにんぎょうじょうり}阿波人形浄瑠璃」などの^{でこ}木偶文化が隆盛しました。今でも年明けには箱回し芸人による「三番叟まわし」が藍屋敷を訪ねて門付けを行っています。

藍の流通を担った脇町には、藍豪商が築いた「うだつの町並み」が残ります。本来防火のために作られた「うだつ」は、富を競うかのように本瓦葺の重厚な装飾がなされ、そのてっぺんでは鬼面の瓦が睨みをきかせています。格子づくりや^{しとみど}蔀戸、^{むしこまど}虫籠窓などの^{いしろう}意匠が美しいうだつの上がつた町並みや、敷地内に船着き場までつくられた豪商の屋敷をみると、藍の集散地として栄えた当時の栄華を誇る暮らしぶりがうかがわれます。そして、年の暮には^{あいけいき}藍景気を唄う「三味線もちつき」の軽快なリズムが当時の賑わいを伝えています。



藍商人が育てた阿波おどり



藍屋敷を訪ねる「三番叟」



うだつの町並み

伝統の技によってつくられる良質の「葉」は、今も全国各地の染織家のもとに届けられ、多くの衣装が彩られています。かつて訪日外国人を魅了した「藍」の色は、東京オリンピック・パラリンピックの大会エンブレムを彩り、日本の伝統色として今また世界に発信されていきます。

ストーリーの構成文化財予定一覧表

番号	文化財の名称 (※2)	指定等の状況 (※3)	ストーリーの中の位置づけ (※4)	文化財の所在地 (※5)
1	たなかけじゅうたく 田中家住宅	国重文 (建造物)	藍師兼藍商人として活躍した田中家の屋敷で、「藍屋敷」と呼ばれる豪壮な民家の代表例。県下最大級の規模。	石井町
2	たけちけじゅうたく 武知家住宅	国重文 (建造物)	藍師兼藍商人として活躍した武知家の屋敷で、「藍屋敷」と呼ばれる豪壮な民家の代表例。大規模な寝床が特徴的。	石井町
3	おくむらけじゅうたく 奥村家住宅	県指定有形 (建造物)	藍師兼藍商人として活躍した奥村家の屋敷で、「藍屋敷」と呼ばれる豪壮な民家の代表例。	藍住町
4	わりいしけじゅうたく 割石家住宅	未指定 (建造物)	藍師兼藍商人として活躍した割石家の屋敷で、「藍屋敷」と呼ばれる豪壮な民家の代表例。近代和風住宅。	阿波市
5	ふじたけじゅうたく 藤田家住宅	未指定 (建造物)	藍による糸染めを行っていた地主である藤田家の屋敷。	北島町
6	やまかわちょうすわ 山川町諏訪の あいやしき 藍屋敷	未指定 (建造物)	藍師兼藍商の屋敷で、「藍屋敷」と呼ばれる豪壮な民家の代表例。県内でも最大規模の寝床をもつ。	吉野川市
7	くどうけじゅうたく 工藤家住宅を ちゅうしん 中心とした あいかんれんぶんかざいぐん 藍関連文化財群	一部市指定有形文化財(西麻植八幡神社の陶製狛犬、両部鳥居、太鼓橋)	藍師兼藍商人として活躍した工藤家の屋敷と、工藤家が信仰し、多額の寄付をした西麻植八幡神社。また工藤家が菜や肥料を運搬するため設置した屋敷北面の西麻植駅。藍師や藍商人の活躍がうかがわれる西麻植地区の文化財群。	吉野川市
8	けんほんちやくしよくのうこうず 絹本著色農耕図 らんでんかんすいのず 「藍田灌水之図」	市指定有形 (絵画)	藍田への灌水作業が描かれた農耕図。阿波藍最盛期の景観が窺い知られる。	阿波市
9	あいのうこうさくの 藍農工作之 ふうけいりやくず 風景略図	未指定 (絵画)	藍づくりの工程を描いた昭和初期の絵巻物	石井町
10	けんしょうじもんじよ 見性寺文書	町指定有形 (古文書)	鎌倉時代に「染葉」が植えられたことが記された文書が残る。	藍住町
11	しょうざいじょうかんあとおよび 勝瑞城館跡及び しゅごまちしょうざいせいせき 守護町勝瑞遺跡	国史跡 (勝瑞城館跡)	藍製造の技術が伝えられた地であり、藍が阿波の経済基盤として発展する契機となった地。	藍住町

12	とくしまじょうあとおよび 徳島城跡及び とくしまじょうかまちあと 徳島城下町跡	国史跡 (徳島城跡)	阿波藍の流通拠点として栄えた城下町と、阿波藍を奨励した蜂須賀氏の政治拠点。	徳島市
13	あいせんあん 藍染庵と いぬぶしきゆうすけぞう 犬伏久助像	町指定有形 (彫刻)	藍染料の製法の改良に成功し、阿波藍の発展に多大な貢献をした犬伏久助。「藍久さん」の愛称で親しまれていた久助の木像が藍染庵に安置されている。	板野町
14	おくむらけもんじよ 奥村家文書	町指定有形 (古文書)	藍師兼藍商人として活躍した奥村家の経営史料。藍商人の経営の実態に迫る史料。	藍住町
15	もときけもんじよ かどやにっき 元木家文書「か登屋日記」	町指定有形 (古文書)	藍商人である元木家当主が3代にわたり、商売ほか時事などについて記した日記。	石井町
16	たけちけもんじよ 武知家文書	未指定 (古文書)	藍商人である武知家に伝わる商売などについて記された古文書群	石井町
17	はやしけもんじよ 林家文書	一部町指定 (古文書)	藍商人である林家に伝わる商売などについて記された古文書群	石井町
18	てづかけもんじよ 手束家文書	未指定 (古文書)	大地主として、また藍商人とし活躍した手束家の明治30年頃から大正時代にかけての経営資料。	阿波市
19	きたじまちょうしよぞう 北島町所蔵 あいかんれん 藍関連文化財	未指定 (古文書・歴史資料)	阿波藍の製造、販売、流通経路、品質に関する資料や葉藍生産状況を知ることのできる文書資料、淡路人形浄瑠璃の元祖といわれる上村源之丞座などの衣裳や道具がある。	北島町
20	たかはしけもんじよ 高橋家文書	未指定 (古文書)	藍商人である高橋家に伝わる商売などについて記された古文書群。	石井町
21	あわあいせいぞう 阿波藍製造	国選定 保存技術	伝統的な藍染料の製造技術。	徳島市 石井町 上板町
22	あわあいさいばいかこうようぐいつしき 阿波藍栽培加工用具一式	国指定 重要有形民俗	藍を栽培し、藍染料を製造・加工するための道具一式。	藍住町
23	あわ 阿波踊り	未指定 (無形)	全国を雄飛した藍商人によって洗練されたものに育てあげられた徳島を代表する民俗芸能。	徳島市 吉野川市 美馬市
24	あわにんぎょうじようるり 阿波人形浄瑠璃	国指定 重要無形民俗	莫大な富を得た藍商人が庶民の娯楽として定着させた徳島を代表する民俗芸能。	徳島市

25	阿波木偶 「三番叟まわし」	県指定 無形民俗	人形を箱に入れて担ぎ、家々を回って門付けを行う。藍寝床では、良質な藍染料ができることを願い、箱回し芸人が「三番叟」を踏む。	徳島市
26	まいなかしまちく 舞中島地区	未指定 (文化的景観)	吉野川の川中島で、藍の一大産地。各所に残る豪華な住居が当時の繁栄ぶりをうかがわせる。	美馬市
27	あいせいさんちしゅうさんち 藍の生産地と集散地を むすぶけいかん 結ぶ景観	未指定 (文化的景観)	吉野川をはさんで、舞中島と脇町南町を結ぶ、藍の生産から流通までの過程を彷彿とさせる景観。	美馬市
28	みましわきまちみなみまちでんとうき 美馬市脇町南町伝統的 けんぞうぶつぐんほぞんちく 建造物群保存地区	国選定 重要伝統的建造物群保存地区	江戸時代中期、藍の集散地として栄えた町並み。町並みの象徴であるうだつからは、当時の繁栄がうかがえる。	美馬市
29	よしだけじゅうたく 吉田家住宅	市指定有形 (建造物)	寛政4(1792)年に創業した、藍商吉田直兵衛の屋敷。屋号を「佐直」と称し、脇町でも1, 2を争った豪藍商。	美馬市
30	しゃみせんもち 三味線餅つき	市指定 無形民俗	阿波藍で栄えた頃、豪商たちが芸子たちに三味線をひかせ餅つきをしたのが始まり。	美馬市
31	あくはっこうだてあいぞめ 灰汁発酵建藍染	未指定 (無形)	阿波藍を灰汁や麩、酒、石灰や貝灰などの天然の素材によって発酵させて建てた藍液による染めの技術。	徳島市 吉野川市 阿波市 美馬市 石井町 北島町 藍住町 板野町 上板町
32	あわあいちゅうせん 阿波藍の注染	県指定無形	紺屋古庄は、阿波藍の注染を行う全国唯一の紺屋。天然染料ならではの阿波藍の魅力を発信する。	徳島市
33	ひがしくらだ 東黒田の うつむき地蔵	未指定 (彫刻)	藍栽培が盛んな洪水地帯において、慰霊や道標、また洪水への警鐘のために地元の藍豪農や藍商人等が寄進した高地蔵。	徳島市
34	かわしまはまじぞう 川島の浜の地蔵	未指定 (彫刻)	藍栽培が盛んな洪水地帯において、慰霊や道標、また洪水への警鐘のために地元の藍豪農や藍商人等が寄進した高地蔵。	吉野川市
35	りょうじたかじぞう 龍池の高地蔵	町指定有形 (彫刻)	藍栽培が盛んな洪水地帯において、慰霊や道標、また洪水への警鐘のために地元の藍豪農や藍商人等が寄進した高地蔵。	藍住町
36	すいじんじや 水神社	町指定有形 (歴史資料) 未指定 (建造物)	水神社に寄進された天井絵や玉垣に町内外の藍師・藍商人の名が見られ、彼らの信仰心を知ることができる。	北島町
37	きゅうとみもとけじゅうたく 旧富本家住宅および きゅうやませうびんきょく 旧山瀬郵便局	未指定 (建造物)	藍で栄えた豪農富本家の藍屋敷と富本家が経営していた特定郵便局舎。近代和風住宅と疑洋風建築の代表例。	吉野川市

38	いわ はなてんぼうだい み 岩の鼻展望台から見える あい りゅうつう けいかん 藍の流通の景観	未指定 (名勝)	かつての藍の一大産地、善入寺島や藍作地方特有の氾濫地帯であった吉野川流域が一望できる景観。	吉野川市
39	いぬぶしけじゅうたく 犬伏家住宅	国重文 (建造物)	藍の取引で財を築き、薬の製造・販売へと家業を拡大させた犬伏家の工場兼住宅。	藍住町

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例: 国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

1. 田中家住宅



4. 割石家住宅



2. 武知家住宅



5. 藤田家住宅



3. 奥村家住宅



6. 山川町諏訪の藍屋敷



7-1.工藤家住宅を中心とした藍関連文化財群
(工藤家住宅)



8.絹本着色農耕図「藍田灌水之図」



7-2.工藤家住宅を中心とした藍関連文化財群
(工藤家住宅)



9.「藍農工作之風景略図」



7-3.工藤家住宅を中心とした藍関連文化財群
(西麻植八幡神社)



10.見性寺文書



11.勝瑞城館跡及び守護町勝瑞遺跡



14.奥村家文書



12.徳島城跡及び徳島城下町跡



15.元木家文書「加登屋日記」



13.藍染庵と犬伏久助像



16.武知家文書



17.林家文書



19-2.北島町所蔵 藍関連文化財



18.手束家文書



20.高橋家文書



19-1.北島町所蔵 藍関連文化財



21-1.阿波藍製造 (定植)



21-2.阿波藍製造 (藍畑)



21-5.阿波藍製造 (寝せ込み)



21-3.阿波藍製造 (藍こなし)



21-6.阿波藍製造 (薬)



21-4.阿波藍製造 (寝せ込み)



22-1.阿波藍栽培加工用具



22-2.阿波藍栽培加工用具



23.阿波おどり



22-3.阿波藍栽培加工用具



24.阿波人形浄瑠璃



22-4.阿波藍栽培加工用具



25.阿波木偶「三番叟まわし」



26.舞中島地区



28-2.美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区
(本瓦葺のうだつ)



27.藍の生産地と集散地を結ぶ景観



28-3.美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区
(屋敷地内の船着き場)



28-1.美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区
(うだつの町並み)



29.吉田家住宅



30.三味線餅つき



31-3.灰汁醗酵建藍染 (藍染製品)



31-1.灰汁醗酵建藍染 (藍建て)



31-4.灰汁醗酵建て藍染 (藍染製品)



31-2.灰汁醗酵建藍染 (藍甕)



32.阿波藍の注染



33.東黒田のうつむき地蔵



35.龍池の高地蔵



34.川島の浜の地蔵



36.水神社



37.旧富本家住宅および旧山瀬郵便局
(旧富本家住宅)



38.岩の鼻展望台から見える藍の流通の景観



39.犬伏家住宅



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
81	藍のふるさと阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～

(1) 将来像 (ビジョン)

～100年先も“世界に誇れる藍のふるさと”であるために～

徳島の北部を東流する、吉野川の中下流域は藍染料の主要産地であり、製造技術は江戸時代から連綿と引き継がれている。この地域で製造される藍染料の品質と生産量は今なお日本一を誇っており、大きな魅力である。また、この地域の生活文化や芸能は「藍」の生産と流通によって築き上げられてきたものであり、「藍」文化の理解は地域の発展に不可欠なことである。そのため、「藍」文化の魅力を掘り起こし、発信していく必要がある。そのため、「藍のふるさと阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～」が令和元年度に日本遺産に認定されて以降、受入環境整備や観光コンテンツ開発、情報発信、他地域との連携等、様々な取組を進めてきた。

今後も引き続き、日本遺産という資源を活かし100年先も世界に誇れる藍のふるさとであるために、本計画で目指す将来像(ビジョン)は次のとおりとする。

- ▶ 日本遺産「藍のふるさと阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～」のストーリーをみんなが理解し、興味を持ち、自分たちの暮らす地域に誇りを持っている。
- ▶ 「藍」に関する調査が進められ、調査の成果が観光や教育に活かされることで、人々が訪れてみたい、また帰ってきたい地域の創造が進められている。
- ▶ 日本遺産「藍のふるさと阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～」の構成文化財を通して、地域の人々が「藍」の本質的価値を知り、その価値を尊重しながら現在の産業やまちづくりにも活用され、人々の暮らしの中に「藍」が溶け込んでいる。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：拠点施設（美馬市脇町「うだつの町並み」、藍住町歴史館「藍の館」、上板町「技の館」）を訪れた観光客数

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027

数値①	136,725	171,551	169,182	172,000	175,000	178,000
数値②	5,657	15,803	19,559	22,000	26,000	30,000
数値③	14,404	17,990	17,335	18,000	19,000	20,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>拠点施設（美馬市脇町「うだつの町並み」：数値①、藍住町歴史館「藍の館」：数値②、上板町「技の館」：数値③）の来訪者数を計数し、指標とする。数値①は、美馬市総合計画や美馬市観光戦略で設定している2%の増加率を採用、数値②・③は、2027年度にはコロナ前の来館者数に戻すことを目標として設定した。</p>					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－B：拠点施設（美馬市脇町「うだつの町並み」、藍住町歴史館「藍の館」、上板町「技の館」）を訪れた観光客の満足度						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	—	展示：89.8% 体験：90.8%	展示：92.6% 体験：91.6%	90%	91%	92%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>2023、2024は藍住町歴史館「藍の館」の実績。「うだつの町並み」にある体験施設や「技の館」においてもアンケート調査を実施し、全ての施設における体験メニューの満足度5段階評価で4以上の割合90%を目指す。また、アンケート調査の結果を分析し、さらに満足度を高める。</p>					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：地域住民が日本遺産のストーリー（地域の歴史文化）を誇りに思う割合						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	—	96.6%	96.6%	97%	97.5%	98%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>住民アンケートを行い、日本遺産のストーリーの認知度や誇りに思う割合を調査する。日本遺産の取り組みを進めることによって、5段階評価で4以上の割合について、現状よりも高い割合を目指す。</p>					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：拠点施設（美馬市脇町「吉田家住宅」、藍住町歴史館「藍の館」、上板町「技の館」）の収入（入館料+体験料+各種商品の売上げ）						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値①	20,479,000	21,212,000	12,607,000 ※12月時点	21,300,000	21,700,000	22,000,000
数値②	6,388,000	15,410,621	18,642,290 ※1月時点	24,200,000	28,600,000	33,000,000
数値③	6,703,200	5,530,000	4,711,000 ※1月時点	6,300,000	6,650,000	7,000,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	拠点施設（美馬市脇町「うだつの町並み」：数値①、藍住町歴史館「藍の館」：数値②、上板町「技の館」：数値③）の売上げ（入館料+体験料+各種商品）を調査する。体験メニューの満足度向上や、施設が販売する商品の魅力向上により、収入を増加させる。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：公開活用が出来ている構成文化財の割合（期間を定めた展示公開を含む）						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	61%	61%	61%	70%以上	70%以上	70%以上
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	公開活用が行われている構成文化財の割合を指標とする。公開できていない古文書等の公開活用を目指す。現状で公開活用できていない古文書の半分を公開することによって、その割合は70%を超える。現在公開されていない構成文化財の一時公開など、新たな魅力の発信を目指す。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の観光入込客数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	11,214,373	12,141,958	14,810,000 (目標値)	15,118,000	15,034,000	15,034,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	協議会会員のイーストとくしま及び、美馬市が設定した地域への観光入込客数の目標値の合計。それぞれの組織で把握する。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

① 調査事業

ア 日本遺産のストーリーや構成文化財の調査・研究の推進

「藍」の文化・歴史・産業の面からの調査・研究を継続的に実施する。また、構成文化財についてもそれぞれの専門的な調査を進める。このことにより、日本遺産のストーリーの本質的価値を顕在化し、正しく継承・発信すると同時に、その成果を構成文化財の整備・活用に活かす。

イ 住民アンケート及び文化観光に関するマーケティング調査

日本遺産のストーリーを活用するためには、ストーリーが地域住民に浸透していることや、訪れてくれる方が興味を持ってくれることが重要である。そのため、住民アンケートや、文化観光の面からのマーケティング調査が必要である。

住民に対するアンケート調査や、DMOと連携した観光客に対するアンケート調査を行うことによって、地域資源に対する住民の認識や、観光客の歴史文化観光への志向を把握し、構成文化財の整備・活用の方法や、普及啓発のために開催する講座やワークショップのテーマや方法、体験メニューについて検討する。

② 整備活用事業

ア 構成文化財の整備

史跡勝瑞城館跡や奥村家住宅、美馬市脇町南町重要伝統的建造物群保存地区等、保存整備事業が継続して行われている構成文化財がある。これらの整備活用事業は、今後も引き続き実施し、日本遺産ストーリーを含む歴史・文化に関する情報の発信拠点として活用する。その他、整備や保存修理が必要な構成文化財についても、適切に対応し、活用を検討する。

イ 日本遺産のストーリーや構成文化財の魅力発信と観光客の受け入れ環境の整備

日本遺産の構成文化財を周遊するルートや、構成文化財を活用した体験プログラム等を検討し、日本遺産のストーリーを楽しく、分かりやすく伝える方法を整備する。同時に、活用のための人材育成を進め、より分かりやすく地域の歴史文化を伝える体制の強化、ソフト事業の展開に努める。整備するパンフレットや案内板、人材はインバウンドを意識して多言語化することを必須とする。

ウ 組織整備と人材育成

日本遺産の取組を推進するため、組織整備を行う。文化財関係者だけではなく、観光関係者や藍産業の関係者、民間事業者や地域プレイヤーも参画した、組織体制を整備する。組織体制の整備に当たっては、インバウンド市場に対する戦略を意識し、海外への情報発信力を強化する。

また、学校教育との連携も進め、次世代を担う子どもたちへ歴史・文化を正しく伝えるとともに、郷土愛の醸成を目指す。特に、海外で語学研修する中高生を対象に、外国語での地域学習を実施し、研修先での情報発信や、将来的には地元でインバウンド対応できる

人材として育成する。

エ 各種講座の開催

日本遺産のストーリーや構成文化財の本質的価値を伝えるために、各種講座やワークショップを開催する。講座やワークショップには、幅広い年代の方に参加してもらう方法を検討する。

オ 情報発信に関する取り組みの強化

日本遺産のストーリーを分かりやすく伝えるために、案内板や解説板（多言語化必須）の整備を行い、情報発信を行う。また、ショッピングモール等の多くの人々が集う場所での展示やワークショップ等のPR活動を実施する。さらに、SNSを活用した情報発信や企画展の開催等を通して、藍のふるさと阿波の魅力を発信する。

③「阿波藍」を活用した地域おこし

地域おこし協力隊制度等を活用し、地域で藍の栽培や染の製造、藍染製品の制作を行うことができる技術者を育成する。同時に、「藍」の6次産業化の取り組みを進め、地域における藍産業の振興と裾野拡大に取り組む。

④ 連携事業

ア 日本遺産認定地域交流事業

他の日本遺産認定地域との交流を深める。かかあ天下ぐんまの絹物語推進協議会、「山寺と紅花」推進協議会、日本遺産「桑都物語」推進協議会と連携して制作したブランド「四織」の商品制作、販売を進めると同時に、お互いの地域の歴史・文化を学ぶ文化交流の機会を検討する。

イ 連携強化

協議会の自治体会員と民間会員の連携を強化し、構成文化財の観光資源としての磨き上げや、日本遺産のストーリーを活かした商品開発を進める。また、大型商業施設とタイアップして日本遺産関連のイベントやPR企画を行う。

(4) 実施体制

藍のふるさと阿波魅力発信協議会

【自治体会員】

徳島市・吉野川市・阿波市・美馬市・石井町・北島町・藍住町・板野町・上板町

【民間会員】

(一社) イーストとくしま観光推進機構・(一社) 美馬観光ビューロー・(一社) ジャパンブルー上板・北島町商工会・かもじま五九郎まちづくり(株)

〔加入予定〕

(株) ボンアーム

徳島商工会議所・吉野川商工会議所・吉野川市商工会・阿波市商工会・美馬市商工会・石井町商工会・藍住町商工会・板野町商工会・上板町商工会

〔人材育成・確保の方針〕

- ▶ 藍のふるさと阿波サポーターは引き続き活動を推進するとともに、新規サポーターを募集する。
- ▶ 地域で既に活動しているプレイヤーや事業者と連携する。
- ▶ 民間会員への加入を依頼し、各市町の商工会との連携を進める。
- ▶ 学校教育と連携し、次世代を担う人材の育成に努める。

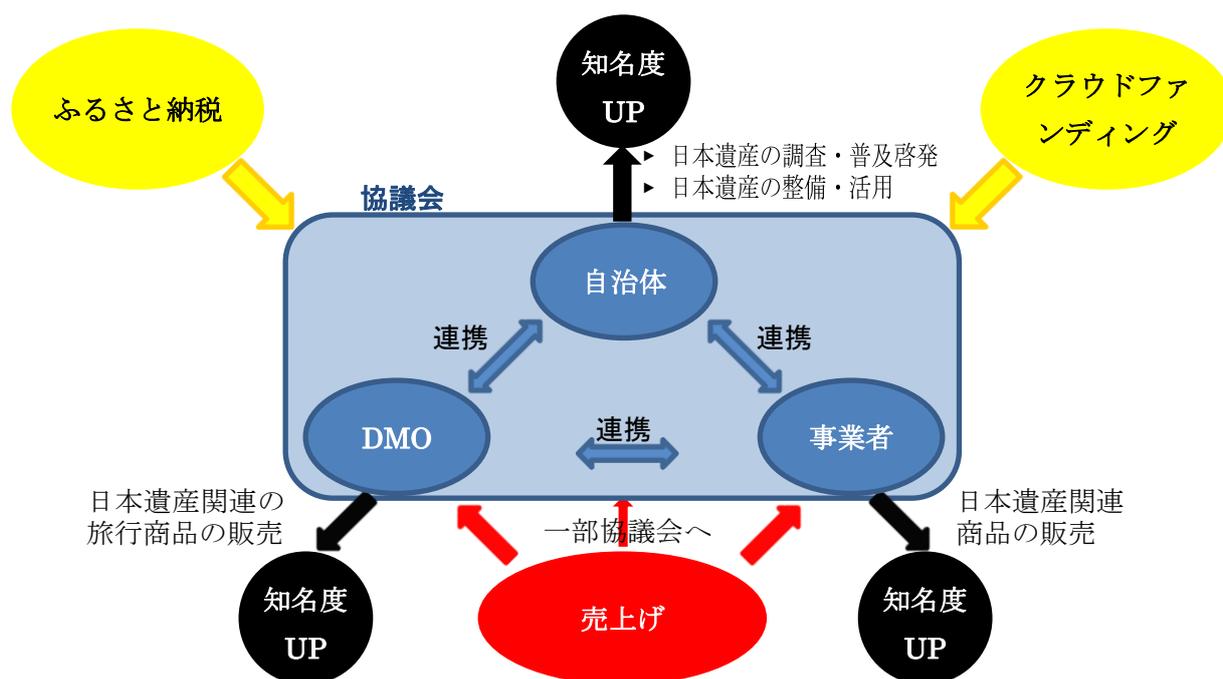
(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

《組織の自立・自走化についての考え方》

- ▶ 地域の観光事業化の推進役であるDMOは、引き続き、協議会と連携した事業を展開し、日本遺産関連の旅行商品の造成や販売を促進する。
- ▶ 文化財活用とインナープロモーション担当の自治体は、継続的な住民向け普及啓発活動や文化財資源の磨き上げに努める
- ▶ DMOと協議会が、連携してサポーターメンバーを増やす
- ▶ 事業者は、協議会と連携し、日本遺産関連のまちづくり事業や商品の開発・販売を促進する。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

日本遺産を活用したツアーや商品の売り上げの一部を、日本遺産の周知並びに地域住民のシティプライドの醸成につながる各種取り組みに活用する。このことにより、日本遺産の認知度向上、構成文化財の保存・活用への理解を進め、ふるさと納税やクラウドファンディングにより事業費を確保し、構成文化財の保存につなげる。



(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	協議会会員の連携強化		
概要	協議会会員のそれぞれの役割を明確化するとともに連携を強化し、計画が有効かつ円滑に実行できるように体制整備を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	事業実施体制の整備	協議会と自治体会員、民間会員のそれぞれの役割を明確化して連携し、相互に強みや資源が活用できる体制を整備する。	協議会
②	自治体内部の連携強化	各自治体においては、庁内の他部署との連携を強化する。	各自治体
③	民間事業者の加入促進	協議会への藍関連団体や教育機関の加入促進を図る。	協議会
④	サポーター養成講座	協議会の事業の協力してもらいサポーターを育成する。	協議会
⑤	テーマ別ワーキンググループの設置	教育文化、産業、観光の部会を設置し、情報の共有を図るとともに、課題の抽出と各事業の展開を進める。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	民間会員者数		6 団体 (実績値)
2023			7 団体 (実績値)
2024			7 団体 (実績値)
2025	民間会員者数		8 団体 (目標値)
2026	民間会員者数		9 団体 (目標値)
2027	民間会員者数		10 団体 (目標値)
事業費	2025 年度 : 50,000 円 2026 年度 : 50,000 円 2027 年度 : 50,000 円		
継続に向けた事業設計	協議会会員の役割を明確化、同時に自治体会員の組織内部の連携を密にし、会員が独自の事業を展開する。また、民間事業者や既に活動している地域プレイヤーと連携して事業が進められる体制を整備し、継続的な事業実施を目指す。		

(事業番号 1 - B)

事業名	日本遺産事業進捗のための財源確保		
概要	日本遺産の整備・活用に必要な財源の確保を進める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ふるさと納税	ふるさと納税の用途を明確化し、「藍」の魅力発信に特化した項目を設定する。	各自治体
②	補助金や助成金の活用	国や県、民間の補助金を活用し、構成文化財の整備・活用を進める。	各自治体
③	協議会の財源の確保	日本遺産を活用したツアーや商品の売上げの一部を、各種取り組みに活用できる仕組みづくりを行う。	協議会
④	民間事業者の自主事業の実施	民間事業者が主体となって、日本遺産関連の自主事業を展開する。	事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	外部資金の獲得件数		11 件
2023			7 件
2024			7 件
2025	外部資金の獲得件数		9 件
2026	外部資金の獲得件数		9 件
2027	外部資金の獲得件数		9 件
事業費	2025 年度 : 300,000 円 2026 年度 : 300,000 円 2027 年度 : 300,000 円		
継続に向けた事業設計	ふるさと納税や寄附、国や県等の補助金を積極的に活用し、DMO や民間事業者との連携から、売上げの一部を協議会が実施する各種取組に活用できる仕組みづくりを進め、継続的な事業実施を目指す。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	将来像の実現に向けた計画的な事業実施		
概要	将来像の実現に向けた計画的な事業実施ができるように、戦略会議の開催、日本遺産の位置付けや他の施策との関係性を明確にした行政計画の作成等を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	住民アンケート調査	地域における日本遺産事業のあり方を検討するため、住民に対するインターネットアンケート調査や、各種講座やワークショップ開催時にアンケート調査を実施する。	協議会
②	文化観光に関するマーケティング調査の実施	DMOと連携して文化観光に関するマーケティング調査を行い、構成文化財の整備・活用の方法や、旅行商品開発の検討材料とする。	協議会 DMO
③	藍のふるさと阿波戦略会議	将来像の実現に向けて、①・②のアンケート調査を踏まえ、計画の実施状況や進捗状況についてセルフモニタリングを行うとともに、外部講師を招いて指導を仰ぐ。	協議会
④	行政計画への位置付け	各自治体において、行政計画に日本遺産を明確に位置づける。	各自治体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産について記載した行政計画・構想の件数		計画がある市町数：4/9
2023			計画がある市町数：4/9
2024			計画がある市町数：5/9
2025	日本遺産について記載した行政計画・構想の件数	1市町村あたり1件以上(目標値)	
2026	日本遺産について記載した行政計画・構想の件数	1市町村あたり1件以上(目標値)	
2027	日本遺産について記載した行政計画・構想の件数	1市町村あたり1件以上(目標値)	
事業費	2025年度：200,000円 2026年度：200,000円 2027年度：200,000円		
継続に向けた事業設計	アンケート調査は、対象者を住民及び旅行者として、地域へは日本遺産の浸透、旅行者へは国内外への情報発信に向けての戦略策定の検討材料とする。戦略会議においては、地域活性化計画の進捗についてセルフモニタリングを行うとともに、外部講師を招いて意見をいただく。また、各自治体会員においては、それぞれに日本遺産の取り組みを行政計画に位置付けを行い、計画的な事業実施を目指す。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	日本遺産を活用した地域活性化活動の推進		
概要	日本遺産を活用する人材を育成するとともに、既に地域で活躍している人材・事業者との連携を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	藍のふるさと阿波サポーター活動	藍のふるさと阿波サポーターによる自主事業の実施を進める。(文化財ウォーク、展示、ノベルティ作り 等)	協議会
②	各市町の商工会との連携	各市町の商工会と連携し、新たな事業展開を模索する。	協議会
③	地域プレイヤーとの連携	既に地域で活躍している人材や事業者との連携を図る。	各自治体
④	地域のサブストーリーの設定とガイド等の育成	地域のサブストーリーを設定し、それぞれにガイド研修等を開催し、調査や情報発信ができる人材を発掘・育成する。	各自治体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	サポーター数		9人
2023			20人
2024			23人
2025	ガイド研修の終了者数		1市町村あたり3人以上(目標値)
2026	ガイド研修の終了者数		1市町村あたり7人以上(目標値)
2027	ガイド研修の終了者数		1市町村あたり10人以上(目標値)
事業費	2025年度:100,000円 2026年度:100,000円 2027年度:100,000円		
継続に向けた事業設計	藍のふるさと阿波サポーターの活動強化に加え、民間事業者や地域プレイヤーとの連携を進め、継続した事業実施を目指す。		

(7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名	日本遺産の理解度UP、構成文化財等の保存・修理・美装化		
概要	構成文化財等の保存・修理・美装化を進めることによって、日本遺産を活用できる環境を整備する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成文化財の保存・活用	史跡勝瑞城館跡やうだつの町並み、奥村家住宅等、現在実施している整備事業を継続するとともに、他の構成文化財についても保存・活用を進める。	各市町
②	拠点施設の整備及び運営強化	日本遺産の拠点施設の整備及び運営の強化を図る。施設の維持管理を適切に行い、ニーズに合ったソフト事業を展開することによって来訪者の満足度向上を図る。	各市町
④	構成文化財の解説板・案内板等の設置	構成文化財の案内板や解説板を整備する。	各市町
⑤	構成文化財の維持管理	構成文化財の小修理や清掃等、維持管理に努める。	各市町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	解説板の数		構成文化財の 66.7%
2023			構成文化財の 66.7%
2024			構成文化財の 66.7%
2025	解説板の数		構成文化財の 100%
2026	解説板の数		構成文化財の 100%
2027	解説板の数		構成文化財の 100%
事業費	2025年度：協議会では0円 2026年度：協議会では0円 2027年度：協議会では0円		
継続に向けた事業設計	現状実施している構成文化財の整備事業は継続して実施する。加えて、日本遺産ストーリーや構成文化財を活用するために必要な看板の整備を進め、それぞれの構成文化財の維持管理にも努める。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産ストーリーを活用した文化観光の推進		
概要	日本遺産ストーリーを体験・体感することができる事業を、文化観光のコンテンツとして活用する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成文化財を活用した旅行商品の造成	構成文化財を楽しめる旅行商品を造成する	DMO
②	構成文化財を体験・体感するコンテンツの販売	構成文化財を体感・体験するコンテンツを造成し、販売する。	施設管理者等
③	ストーリーに関連する商品の販売	ストーリーに関連する各種商品を開発し、販売する。	事業者
④	公認ガイドの育成	ガイド講座や実地研修の実施	協議会
⑤	観光モデルルートの設定	日本遺産ストーリーを理解できるモデルルートの設定	協議会 DMO
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産ロゴ付き連携商品の数		1件
2023			2件
2024			4件
2025	日本遺産ロゴ付きの連携商品の数		5件
2026	日本遺産ロゴ付きの連携商品の数		7件
2027	日本遺産ロゴ付きの連携商品の数		10件
事業費	2025年度：200,000円 2026年度：200,000円 2027年度：200,000円		
継続に向けた事業設計	日本遺産のストーリーや構成文化財を活用した各種商品を開発し、販売を進める。また、日本遺産を文化観光のコンテンツとして活用し、その価値や魅力を来訪者に分かりやすく伝えるために、モデルルートの設置や公認ガイドの育成を進め、理解促進・知名度向上を図ることによって継続的な事業実施を目指す。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	日本遺産ストーリーや構成文化財の知名度UP		
概要	学校教育や社会教育、観光等多方面からの事業を展開し、日本遺産ストーリーや構成文化財の知名度向上を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	学校教育との連携し、小中学校での普及啓発	日本遺産ストーリーや構成文化財を、次世代を担う人材に継承するために学校教育と連携し、現地見学や出前授業、体験学習を実施する。	各市町
②	地域住民に向けた普及啓発	地域住民を対象とした講座を実施し、地域住民が日本遺産のストーリーを理解し誇りの醸成を図る。	各市町
③	普及啓発を目的としたイベントの実施	日本遺産ストーリーや構成文化財についての普及啓発のためのイベントを実施する。	各市町
④	他地域との交流	日本遺産ストーリーを連携・活用し、他地域との文化交流を進めることで、知名度の向上を図る。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産に関連する講座や体験学習の開催数		開催している市町数：8
2023			開催している市町数：8
2024			開催している市町数：8
2025	日本遺産に関連する講座や体験学習の開催数	各市町1回以上	
2026	日本遺産に関連する講座や体験学習の開催数	各市町1回以上	
2027	日本遺産に関連する講座や体験学習の開催数	各市町1回以上	
事業費	2025年度：協議会では0円 2026年度：協議会では0円 2027年度：協議会では0円		
継続に向けた事業設計	協議会の自治体会員における、地域住民や小中学校の児童・生徒に対する普及啓発の活動を強化する。そのことにより、日本遺産のストーリーの理解を進め、次世代を担う子どもたちを含めた地域の方々の地域の歴史文化に対する誇りを醸成し、継続した取り組みにつなげる。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	日本遺産ストーリー等の基本的な情報を伝える取り組み		
概要	日本遺産ストーリーに関する情報やそれぞれの地域のサブストーリー、協議会が行う取り組み等、基本的な情報を積極的に発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	SNS や Web サイトにおける情報発信	Instagram、Facebook、X 等の SNS や Youtube を活用することによって日本遺産ストーリーに関する情報やそれぞれの地域のサブストーリー、協議会が行う取り組み等、基本的な情報を積極的に発信する。	協議会 DMO
②	日本遺産ポータルサイトでの情報発信	日本遺産ポータルサイトで、協議会や各市町が実施するイベント情報の発信を積極的に行う。	協議会 各市町
③	藍のふるさと阿波スマートガイドによる情報発信	藍のふるさと阿波スマートガイドによって日本遺産ストーリーに関する情報やそれぞれの地域のサブストーリー、協議会が行う取り組み等、基本的な情報を積極的に発信する。	協議会
④	地域のサブストーリーの設定	日本遺産のストーリーの中にある、地域のサブストーリーを設定し、地域の歴史文化の魅力を分かりやすく伝える。	各市町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	SNS への投稿回数		13 回
2023			93 回
2024			99 回 (R7. 2. 20 現在)
2025	SNS への投稿回数		120 回
2026	SNS への投稿回数		120 回
2027	SNS への投稿回数		120 回
事業費	2025 年度 : 238,000 円 2026 年度 : 238,000 円 2027 年度 : 238,000 円		
継続に向けた事業設計	協議会の取り組みや、イベント情報等を SNS や Youtube を活用して積極的に PR し、日本遺産ストーリーの認知度向上に努める。また、地域のサブストーリーを設定し、それぞれの地域の歴史文化の魅力を様々な角度から発信することにより、多くのファンを獲得し、継続した取り組みに繋がるように努める。		